

作品『わたしが一番きれいだったとき』から学ぶ

茨木のり子さんの生き方と詩の朗読会

日時：平成30年4月11日(水)

10:00~11:30

場所：伊丹市立女性・児童センター 講習室

講師：解説 渡辺 美左子さん
朗読 田中 晴子さん



わたしが一番きれいだったとき
わたしが一番きれいだったとき
街々ががらりと崩れていって
とんでもないところから
青天なんかが見えたりした

わたしが一番きれいだったとき
まわりの人達が沢山死んだ
工場で、海で、名もない島で
わたしはおしやれのきつかけを落としてしまった

わたしが一番きれいだったとき
誰もやさしい贈り物を捧げてはくれなかった
男たちは拳手の礼しか知らなくて
きれいな眼差だけを残り皆棄てていった

わたしが一番きれいだったとき
わたしの頭はからっぽで
わたしの心はかたくなで
手足ばかりが柔色に光った

わたしが一番きれいだったとき
わたしの国は戦争で負けた
そんな馬鹿なことであるものか
ブラウスの腕をまくり卑屈な町をのし歩いた

わたしが一番きれいだったとき
ラジオからはジャズが溢れた
禁煙を破ったときのようにぐらぐらしながら
わたしは異国の甘い音楽をむさぼった

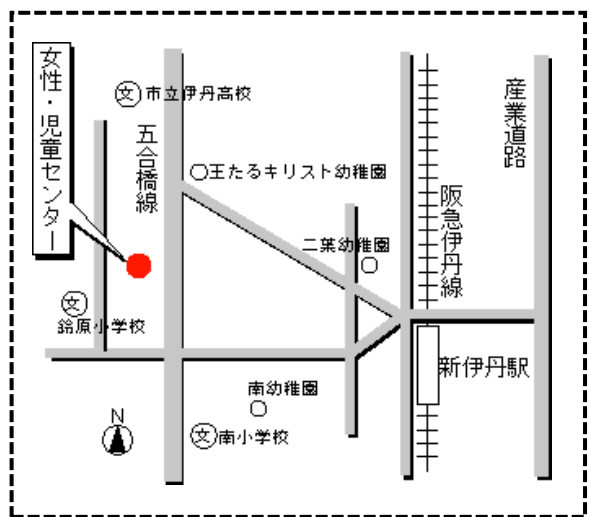
わたしが一番きれいだったとき
わたしはともふしあわせ
わたしはともどもとんちんかん
わたしはめっぽうさびしかった

だから決めた できれば長生きすることに
年とってから凄く美しい絵を描いた
フランスのルオー爺さんのようにね

定員：20名(先着順)
対象：テーマに関心のある方
参加料：500円

保育：定員6名
1歳半~就学前
1人1回350円
(1週間前までに要予約)

茨木のり子さん—詩人・エッセイスト・童話作家・脚本家。戦時下で体験された飢餓と恐怖が、茨木さんの命を大切に強い気持ちを育んだそうです。美しく凜とした言葉を紡ぎ、時に優しく、時に厳しく、心に響く名作を数多く残されました。また女性の自立をも明るく表現しておられます。講座では、尼崎市や芦屋市で活躍されている田中晴子さんによる朗読と、高校で国語教師の経験をお持ちの渡辺美左子さんによる解説でお楽しみいただきます。



お申込み・お問い合わせ
伊丹市立女性・児童センター
〒664-0855 伊丹市御願塚6-1-1
TEL 072-772-1078 (休館日：火曜日・祝日)
メールからのお申込み ☒salon@itami-danjo.jp